

2023 年度
(令和 5 年度)
事業報告書
2023. 4. ~2024. 3

公益財団法人 神経研究所

事業報告書

(2023年度)

I. 理事会・評議員会の主な決議・承認・報告事項

1. 2023年6月7日(水) 定時理事会

- 1) 2022年度事業報告書の審議及び承認
- 2) 2022年度決算報告書及び監査報告の審議及び承認
- 3) 任期満了する理事 高橋清久氏の重任について定時評議員会へ推薦することを決議
- 4) 任期満了する理事 井上雄一氏の重任について定時評議員会へ推薦することを決議
- 5) 任期満了する監事 碓井憲男氏の重任について定時評議員会へ推薦することを決議
- 6) 精神神経科学センター幹部会規程の審議及び承認
- 7) 定時評議員会の招集及び開催について

2. 2023年6月29日(木) 定時評議員会

- 1) 2022年度事業報告書の審議及び承認
- 2) 2022年度決算報告書及び監査報告の審議及び承認
- 3) 理事会より推薦の理事 高橋清久氏の重任について審議及び承認
- 4) 理事会より推薦の理事 井上雄一氏の重任について審議及び承認
- 5) 理事会より推薦の監事 碓井憲男氏の重任について審議及び承認
- 6) 任期満了する評議員 大森健一氏の重任について審議及び承認
- 7) 任期満了する評議員 小島卓也氏の重任について審議及び承認
- 8) 任期満了する評議員 山本輝之氏の重任について審議及び承認
- 9) 精神神経科学センター幹部会規程の審議及び承認

3. 2023年9月6日(水) 臨時理事会

- 1) 東京都発達障害者支援センター事業(おとな TOSCA)の内閣府変更認定申請届の提出について審議及び承認
- 2) 東京都発達障害者支援センター事業(おとな TOSCA)の内閣府変更認定申請届提出の遅延理由と再発防止対策の提出についての審議及び承認

4. 2024年3月6日(水) 定時理事会

- 1) 2024年度事業計画書の審議及び承認
- 2) 2024年度収支予算書の審議及び承認
- 3) 2024年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- 4) 評議員 大森健一氏の任期途中の辞任申し出を評議員会に報告することを承認
- 5) 評議員候補者 神庭重信氏の選任及び評議員会への推薦について審議及び承認
- 6) 東京都発達障害者支援センター事業(おとな TOSCA)の内閣府変更認定されたことの報告と承認
- 7) 公益財団法人神経研究所組織図の変更について審議及び承認
- 8) 評議員会の招集及び開催について

5. 2024年3月27日(水)評議員会

- 1) 2024年度事業計画の審議及び承認
- 2) 2024年度収支予算書の審議及び承認
- 3) 2024年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- 4) 評議員 大森健一氏の任期途中の辞任申し出について審議及び承認
- 5) 評議員候補者 神庭重信氏の評議員選任について審議及び承認
- 6) 東京都発達障害者支援センター事業(おとな TOSCA)の
内閣府変更認定されたことの報告と承認
- 7) 公益財団法人神経研究所組織図の変更について審議及び承認

II. 再開発事業について

令和5年度の再開発関連の事業について、下記の2項目を実施した。

1. 新病院建設工事の着手

2023年3月15日、新病院建設工事の起工式を実施した。施工会社は株式会社不二建設。長谷工コーポレーショングループ会社の一社であり、大手デベロッパーのマンションなどを多く手掛ける。医療施設、福祉施設の実績もある。また、隣接東急不動産のマンションの施工者でもある。隣接地での工事(マンション竣工前1年間病院工事と重なる)のアドバンテージが工事金額に十分反映したと考える。監理業務は株式会社岡田新一設計事務所が担当している。

新病院請負代金は金2,959,000,000円(うち消費税269,000,000円を含む)。

支払い条件は着手時20%、上棟時40%、完成時40%である。

延べ床面積7,542.16㎡、建築面積1,825.02㎡、地上6階、地下1階、RC造。

2023年度内で約40%の工事出来高を上げた。山留工事、杭工事、地下1階基礎1階コンクリート打設を完了した。2024年10月末には上棟の予定だ。職人の人手不足や石油の高騰などによる光熱費、資材の高騰により工事の進捗にも影響は少なくはないが何とか工期は予定通り維持している。

工事の進捗に沿って、毎月1回第3水曜日の午後にワーキングを実施している。主に運用に絡むことや建築の仕様、仕上げ材料、設備機器の仕様などの確認をしている。また、病院発注工事としての情報関連工事(電話、インターネット、WIFIなど)や家具の選定についても意見交換をしている。

2. 医療施設近代化整備補助金事業

再開発事業に際して、当初緊急耐震化事業補助金を想定していたが、補助金支給の今後の継続見通しが不明であることから、医療施設近代化整備補助金に切り替えた経緯がある。3か年にわたる補助事業で2022年度の申請で事業計画書を2022年1月に提出した。現時点の想定で5億6千万円の補助を申請し、内定を受けたが、今後の事業計画の内容によって変更を生じることはある。2023年4月25日に2022年度分の出来高4%の検査を受け、令和4年度の補助金として支給額は21,030,000円であった。2024年5月1日に令和5年度の補助金として、国庫の査定(17%減)もあったが169,911,000円の東京都の検査を予定している。

Ⅲ. 臨床部

1. 附属晴和病院(小石川東京病院)

1) 入院

2023年度の入院状況は1日平均患者数が52.5人と予算人数と同数を確保できた。1日平均患者数は前年度に比べ5.7人増と年間を通じて安定していたが、特に上半期は55.3人と高位で安定し、逆に下半期は49.6人と次年度に向け不安を残した。年間平均在院日数は48.6日で前年度の41.1日、前々年度の40.0日と比べるとやや伸びたが、精神科としては異例の短さである。この背景には、アスペルガー症候群などの発達障害を対象とする、2週間及び3週間の検査入院の充実とともに、発達障害患者の約20%が該当するといわれる睡眠障害の検査入院など、睡眠検査設備を刷新し、新たな診療領域に積極的かつ継続的に取り組んだことが、顕著に表れている。これらの傾向は当院の大きな特色であり、従来の精神科診療とは異なる成果が期待できると考えている。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
延在院患者数	24,716	13,860	15,132	17,094	19,198
1日平均在院患者数	67.5	38.0	41.5	46.8	52.5
平均在院日数	56.1	39.7	40.0	41.1	48.6
1人1日平均単価	19,248	20,181	21,261	20,217	18,978

2) 外来

外来の年間1日平均患者数は135.9人と前年度の129.6人、予算の128.5人から上方で推移した。また、前年度に急増した年間新患者数は今年度も延べ950人と2年連続で1,000人に近づくほどに大きく伸びている。特に発達障害と睡眠障害の増加傾向が顕著であり、統合失調症の減少傾向及びうつ病や神経症圏の患者の漸減傾向は継続していることから、更に当院の特徴を積極的に広報するなどして、地域からの紹介を受け入れたい。最近では、発達障害の中でもADHDの一部の例では、睡眠障害の一種である過眠症を合併することがわかってきた。発達障害と睡眠障害と対象を異にしてスタートした外来であるが、両者が協働して精神科医療の隠れたニーズを掘り当てたということになるが、医療に限らず、研究面も含めて継続して発展に努めたい。

2023年1月からスタートした、東京都発達障害者支援委託事業「おとなTOSCA」も2年目に入った。業務内容は発達障害者本人、家族、職場からの電話相談や各行政担当者への指導などを含み、中核医療機関である当法人を含む専門医療機関へのつなぎや、有料の心理相談、法律相談など新病院での新規事業につながる取り組みは1年を通じた活動から、当法人の理念達成に寄与すると確信した。2023年度相談件数は2,403件で、内ASD24%、ADHD14%など発達障害者等からの相談は全体の約4割、発達障害に似て非なる方からの相談は約6割との統計も出た。

これらをもとに、相談者全ての方が満足できるように、医療や生活の質改善への取り組みを行政と共に構築したいと考えている。

4年目を迎えた訪問診療は2022年度の75件から2023年度は145件と安定した成果が出ている。引き続き、引きこもり、睡眠障害、認知機能の低下した患者など、通院が困難な患者を、公的機関や近隣医療機関と連携して、引き受けていきたい。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
延外来患者数	33,000	31,444	33,941	34,466	36,154
新規患者数	805	684	713	986	950
1日平均患者数	122.2	119.6	128.1	129.6	135.9
1人1日平均単価	5,840	5,770	5,848	6,197	6,279

3) デイケア

2023年度は、月間平均利用者数が477.5名（前年度比+112%）、平均日当円は97,724円（前年度比+111%）であった。これは同年5月、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行した影響は多分にあるものの、それ以外にも次の幾つかの要因があったものと考えられる。デイケアに配置されている各専門職が積み重ねた知見を活かし、既存のリワーク・生活支援コース内のプログラム内容の一部改変（たとえば、WRAP：元気回復行動プランなど）といった新たな取り組みをはじめ、需要が増加し続けているADHDコースの平日コースの新設（登録15名）、従前の疾患別プログラム非適応層に向けたコースの拡大、前年度に新設したASD既婚男性向けピア・サポートコースの認知度の高まり（前年度比+6名）もあった。こうした取り組みが外部にも知られるようになり、デイケアを持たない外部クリニックに主治医を置く利用者も登録実人数全体の5%強を占めるようになってきている。

それからデイケアでは、当事者への治療だけでなく、当事者を取巻く周囲の人や環境への働きかけが重要と考え、2020年度から始まった発達障害当事者の家族会・家族の集いを継続的に開催している。2023年度は、「家族支援教室」を隔月で開催し、親亡き後や当事者の生活を支える社会資源を主なテーマに扱った。現在はまだスタッフ主導で開催しているものの、晴和病院の再始動後には家族との協働から家族主導の会になだらかに移行できるような準備を始めつつある。

最後に次年度に向け、久しく不在であった作業療法士1名の採用が予定されており、これまでのデイケア・プログラム運営に不足していた視点が補えることになる。新たな職種を迎え、晴和病院再稼働に合わせ、二極化する利用ニーズに応えるべく、生活支援コースの拡充（就労準備層・居場所利用層）への準備年度としていきたい。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ショート・ケア算定回数	3,177	2,821	3,115	3,100	3,557
デイケア算定回数	2,591	1,915	1,581	1,845	1,953

4) 看護部

看護部は「安全管理・感染管理の基本方針の徹底と実践」「接遇を向上させ患者・家族から信頼される看護の提供」「組織の一員として積極的な経営参画」を目標として取り組んだ。今年度も年間を通し地域一般入院料 15 : 1、看護補助者加算 30 : 1、看護補助体制充実加算を算定することができた。病棟は長い期間師長が不在であったが、8 月に新師長が就任し病棟運営を任せることができています。外来は患者数の増加と比例し業務量も増したが、医事スタッフと協力して患者サービスの向上に努めた。次年度は引き続き安全・感染管理の徹底と接遇を向上させいくとともに、電子カルテの導入をはじめ様々なシステム、設備・備品などを多職種とも検討し、安全に新病院へ移転できるよう努めていく。

5) 実習の受け入れ

(1) 医療相談室

- ・ 専門学校高崎福祉医療カレッジ：2023 年 5 月 9 日～6 月 16 日 1 名
- ・ アルファ医療福祉専門学校：2023 年 7 月 4 日～8 月 15 日 1 名

(2) 心理室

臨床心理士・公認心理師実習（大学院生）

- ・ 跡見女子大学大学院：2023 年 5 月～7 月（1 名）、9 月～11 月（1 名）計 2 名
- ・ 駒沢女子大学：2023 年 10 月～2024 年 3 月（1 名）計 1 名
- ・ 聖心女子大学大学院：2023 年 4 月～9 月（1 名）10 月～2024 年 3 月（1 名）計 2 名
- ・ 昭和女子大学大学院：2023 年 4 月～9 月（2 名）、10 月～2024 年 3 月（1 名）計 3 名
- ・ 帝京大学大学院：2023 年 4 月～7 月（1 名）計 1 名
- ・ 帝京平成大学大学院：2023 年 4 月～12 月（1 名）計 1 名
- ・ 東京女子大学大学院：2023 年 5 月～7 月（1 名）、7 月～9 月（1 名）11 月～2024 年 3 月（1 名）計 3 名
- ・ 早稲田大学大学院：2023 年 6 月～7 月（1 名）、8 月～9 月（1 名）、10 月～11 月（1 名）計 3 名

公認心理師見学実習（学部生）

- ・ 東京女子大学学部見学実習：19 名
- ・ 東京未来大学学部見学実習：25 名

(3) 看護部

- ・ 東京工科大学医療保健学部看護学科：2023 年 7 月（統合看護実習 1 クール計 2 名）
2023 年 9 月～11 月（精神看護学実習 3 クール計 12 名）
- ・ 東京女子医科大学看護学部：2023 年 6 月（精神看護学実習 2 クール計 12 名）
- ・ 文京学院大学保健医療技術学部看護学科：2024 年 1 月（精神看護学実習デイケア 6 名）
- ・ 東京医薬専門学校看護学科：2024 年 2 月（精神看護学実習 2 クール計 12 名）

2. 附属睡眠呼吸障害クリニック

睡眠呼吸障害クリニックは平成 11 年 11 月にわが国で最初に開設したクリニック形式の睡眠医療診療専用施設である。日本睡眠学会の認定医療機関でもあり、主に睡眠呼吸障害、睡眠時無呼吸症候群の診療をしている。他にナルコレプシーなどの過眠症、レム睡眠行動障害、周期性四肢運動障害、レストレスレッグス症候群などの睡眠障害も診療できる体制を整えている。

睡眠時無呼吸症候群は睡眠中の呼吸停止により睡眠の質の低下をきたし、日常生活に多大な影響を与えるのみならず、心血管系、代謝内分泌系への悪影響もある。高血圧、心不全、不整脈、動脈硬化の進行による心筋梗塞・脳梗塞、糖尿病などの罹患率・死亡率が増加することが疫学調査により分かっている。いわゆる生活習慣病と密接な関連がある病態であり睡眠呼吸障害の診療は予防医学の見地からも重要であると考えている。

当クリニックは睡眠医学を専門とする医師、検査技師による診療体制を整えている。患者のみならず他の医療機関からも評価されており、大学病院をはじめとする総合病院、医院などから多くの患者が紹介されている。呼吸器内科、精神科、耳鼻咽喉科を専攻する医師で診療を行い、科をまたがる病態にも対応できる体制をとっている。

従来は睡眠呼吸障害を主に診療していたが、睡眠呼吸障害以外の過眠症、睡眠時随伴症などの診療希望も多くなっているため、これらの疾患も積極的に診療している。

最近是一般の病院、医院などで睡眠時無呼吸症候群の簡易検査が容易に施行可能になっているが、正確な診断と的確な治療をするためには終夜睡眠ポリグラフ検査 (PSG) が必要である。当クリニックでは最新式の睡眠ポリグラフィソムノスターシステムによる PSG を多数施行している。

治療は主に持続陽圧呼吸療法 (CPAP) を用いている。CPAP の治療患者数は日本有数の多さである。

睡眠時無呼吸症候群は高い有病率があるにもかかわらず、未検査・未治療の患者がいまだに多いため、医療関係者・一般の人々に対する啓発活動もおこなう。

過眠症に対しては睡眠潜時反復検査 (MSLT) が診断に必須であり、当クリニックでも睡眠潜時反復検査を施行している。新規の患者が多く今後は過眠症の患者の比率の増加が予測される。

【2023 年度の診療実績】

- ・外来患者数 月間平均 1,199 名、年間延べ 14,386 名
- ・睡眠時無呼吸症候群の持続陽圧呼吸 (CPAP) 管理患者数 約 1,855 名
- ・PSG 検査 (CPAP 導入のための検査も含む) 月平均約 49.9 名

IV. 精神神経科学センター

1. 助成事業

1) 公募による助成

(1) 睡眠健康推進委員会 (書面)

開催回数：1 回

2023 年 7 月 20 日開催時の申請件数は 6 件、採択は 3 件

①睡眠科学分野 1件

申請者 元村 祐貴 (九州大学大学院 芸術工学研究院人間生活デザイン部門 助教)
課題名「機械学習を用いた睡眠中意識体験のデコーディング」

②睡眠医学分野 1件

申請者 角 幸頼 (滋賀医科大学 精神医学講座 助教)
課題名「レム睡眠行動障害における幻視・錯視体験の神経生理学的背景の解明」

③睡眠社会学分野 1件

申請者 高野 裕太 (公益財団法人神経研究所 研究部 睡眠学研究室 客員研究員)
課題名「勤労者の日中の過度の眠気が職場に与える影響と背景要因の特定」

2. 普及啓発事業

1) 睡眠に関する正しい知識の普及啓発活動

(1) 秋の「すいみんの日」市民公開講座をWEB配信にて開催

日程：2023年9月2日(土)

テーマ：昼間の眠気で困っていませんか？～過眠症を知って適切な対応を～

演者：内村 直尚 (久留米大学 学長/日本睡眠学会 理事長)

木村 華 (NPO 法人日本ナルコレプシー協会 会員/株式会社 HK STYLE 社長)

駒沢 典子 (NPO 法人日本ナルコレプシー協会 副理事)

視聴者数：345名

(2) 出張睡眠市民公開講座：実施 22 件

- ・茨城県筑西市 2023年5月10日(水) 地域の健康づくりリーダー 58名
- ・愛媛県八幡浜市 2023年6月30日(金) 相談業務に従事する民生委員、主任児童委員、公民館主事など 80名
- ・埼玉県鴻巣市 2023年7月14日(金) 21名
- ・埼玉県大里郡寄居町 2023年7月23日(日) 壮年期の一般住民 30名
- ・香川県綾川町 2023年8月9日(水) 町民 35名
- ・三重県桑名市 2023年8月19日(土) 一般市民 46名
- ・神奈川県藤沢市 2023年9月7日(木) オンライン講演会 19名、アーカイブ配信 101名
- ・福井県越前市 2023年9月7日(木) 一般市民 23名
- ・静岡県御前崎市 2023年9月12日(火) 保健委員 33名
- ・千葉県浦安市 2023年9月12日(火) 市民 37名
- ・群馬県邑楽町 2023年9月27日(水) 市民 30名
- ・東京都練馬区 2023年9月28日(木) 区民 39名
- ・愛媛県西条市 2023年10月7日(土) 市民 47名
- ・茨城県ひたちなか市 2023年10月12日(木) 市民 69名
- ・埼玉県草加市 2023年10月23日(月) 市民 対面 33名、Web 配信 71名
- ・北海道生田原地域健康づくり推進委員会 2023年10月27日(金) 市民 40名
- ・三重県紀北町 2023年10月27日(金) 元気づくり推進員 16名
- ・静岡県三島市 2023年11月1日(水) 14時～16時 保健委員 40名
- ・兵庫県加西市 2023年11月9日(木) 一般市民 40名
- ・福岡県古賀市 2023年11月16日(木) 市民 49名
- ・茨城県桜川市 2023年11月17日(金) 市民 45名
- ・富山県氷見市 2024年3月22日(金) ヘルスボランティア 40名

(3) 学校訪問型睡眠講座：実施 43 件 中止 3 件

- ・ 広川町立中広川小学校 2023 年 4 月 20 日 (木) 教諭 35 名
- ・ カリタス女子中学校 2023 年 5 月 1 日 (月) 中学 1・2 年生 380 名、教師 18 名
- ・ 岡山県瀬戸内市立国府小学校 2023 年 5 月 25 日 (木) 教師 3 名、保護者 16 名
- ・ 西都市立三納小中学校 2023 年 6 月 1 日 (木) 小学生 27 名、中学生 46 名、教師 15 名、保護者 7 名
- ・ 清瀬市立清明小学校 2023 年 6 月 3 日 (土) 教員 20 名、保護者 1 名
- ・ 三鷹市立北野小学校 2023 年 6 月 3 日 (土) 生徒 297 名、教師 23 名、PTA 役員 6 名
- ・ 飯能市立美杉台中学校 2023 年 6 月 6 日 (火) 全校生徒 280 名、教師 25 名
- ・ 久喜市立菖蒲小学校 2023 年 06 月 10 日 (土) 児童 90 名、教職員 10 名、保護者 28 名
- ・ 宮崎市立広瀬北小学校 2023 年 6 月 15 日 (木) 5・6 年生 194 名、教師 20 名、保護者 23 名
- ・ 津市立安濃小学校 2023 年 6 月 15 日 (木) 5・6 年生 53 名、教師 4 名、保護者 25 名
- ・ 高野町立高野山中学校 2023 年 6 月 21 日 (水) 生徒 34 名、教師 10 名、保護者 1 名
- ・ 愛川町立中津小学校 2023 年 6 月 29 日 (木) 5 年生 77 名、6 年生 66 名、保護者 2 名、教師 10 名
- ・ 栗原市立志波姫中学校 2023 年 6 月 30 日 (金) 1~3 年生 185 名、教員 20 名、保護者 20 名
- ・ 川崎市立南菅中学校 2023 年 6 月 30 日 (金) 中学 1 年生 80 名
- ・ 吉川市立三輪野江小学校 2023 年 7 月 1 日 (土) 保護者 30 名、教師 2 名
- ・ 紀の川市立那賀中学校 2023 年 7 月 5 日 (水) 生徒 115 名、教師 13 名
- ・ 小田原市立白山中学校 2023 年 7 月 6 日 (木) 全校生徒 538 名、教師 50 名、他 3 名
- ・ 春日部市立藤塚小学校 2023 年 7 月 7 日 (金) 6 年生 53 名、教職員 8 名、保護者 3 名、学校薬剤師 1 名
- ・ 川崎市立川崎中学校 2023 年 7 月 7 日 (金) 生徒 132 名、教師 10 名
- ・ 延岡市立北浦小学校 2023 年 7 月 7 日 (金) 児童 58 名、保護者 16 名
- ・ 戸田市立戸田東中学校 2023 年 7 月 10 日 (月) 生徒 501 名、教師 25 名
- ・ 近江八幡市立武佐小学校 2023 年 7 月 10 日 (月) 6 年生 36 名、教師 2 名
- ・ 綾瀬市立落合小学校 2023 年 7 月 11 日 (火) 児童 112 名、教員 6 名、保護者 4 名
- ・ 川崎市立西御幸小学校 2023 年 7 月 13 日 (木) 小学校 3 年生 43 名、4 年生 50 名、担任 6 名、養護教諭 1 名
- ・ 香川誠陵中学校 2023 年 7 月 20 日 (木) 全校生徒 160 名、教職員 16 名
- ・ 鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校 2023 年 8 月 24 日 (木) 保護者 8 名、教員 9 名
- ・ 伊勢原市立石田小学校 2023 年 8 月 24 日 (木) 教師 17 名、保護者 11 名
- ・ 草加市立小山小学校 2023 年 9 月 6 日 (水) 児童 130 名、教員 8 名、保護者 30 名
- ・ 春日部市立武里中学校 2023 年 9 月 7 日 (木) 生徒・教師 合計 498 名
- ・ 新潟市立小針小学校 2023 年 9 月 8 日 (金) 児童 653 名、教職員 40 名、保護者・養護教諭 15 名
- ・ 玉野市立玉原小学校 2023 年 9 月 21 日 (木) 4~6 年生 65 名
- ・ 市川市立第三中学校 2023 年 9 月 29 日 (金) 生徒 738 名、教職員 42 名、保護者 13 名
- ・ 市川市立市川小学校 2023 年 10 月 4 日 (水) 児童 228 名、教師 11 名
- ・ 鏡石町立第一小学校 2023 年 10 月 7 日 (土) 児童 83 名、教師 6 名、保護者 13 名
- ・ 杉並区立高南中学校 2023 年 11 月 11 日 (土) 全校生徒 177 名、教師・保護者
- ・ 伊達市立掛田小学校 2023 年 11 月 13 日 (月) 教師 15 名
- ・ 阿南市立長生小学校 2023 年 11 月 20 日 (月) 児童 39 名、教師 4 名、保護者 11 名
- ・ 駿東郡小山町立北郷中学校 2023 年 12 月 5 日 (火) 全校生徒 153 名、教師 17 名

- ・神流町立中里中学校 2023年12月8日(金) 14時35分～15時25分 全校生徒15名、教職員10名、保護者15名
- ・川崎市立高津高等学校(定時制) 2023年12月12日(火) 生徒85名、教員25名
- ・玉村町立南中学校 2023年12月14日(木) 全校生徒380名、教師35名、保護者5名
- ・朝霞市養護教諭研究協議会 2023年12月19日(火) 養護教諭21名
- ・所沢市立北小学校 2024年2月7日(水) 4年生児童94名、教職員8名、保護者15名

(4) 企業訪問型睡眠講座

2023年度は実施なし

(5) 睡眠健康推進機構長賞授与

広島大学大学院医系科学研究科睡眠医学講座 寄附講座教授 塩見利明先生へ授与
「ニュースレター」に記事を掲載した。

3. 広報活動

1) ニュースレター発行回数：2回

No. 2:2023年8月発行、No. 3:2024年2月発行

V. 研究部

研究部は臨床精神薬理研究室、睡眠学研究室、発達障害研究室の3部門に分けられる。しかし臨床精神薬理研究室は臨床試験を行う部門ではあるが、特に独立して精神薬理学を専門にする医師が現在には在籍していないために、睡眠障害と発達障害に関して臨床試験を行う場合にほぼ限られる。

睡眠学研究については、別法人である「睡眠総合ケアクリニック代々木」で客員研究員が行っている研究実績を紹介するが、晴和病院でも近年は活発に睡眠に関する共同研究を行っており今後は研究報告も増えていくことが期待される。

外来部門でも紹介したように、ADHDと過眠症を合併する症例を対象として、メチルフェニデートの薬理学的作用機序を探る研究「注意欠如多動性障害の薬物療法の神経基盤の解明」(主任研究者：高橋英彦東京医科歯科大学教授)が2023年度で終了したので大型の研究費については今年度に予定されているものはない。「国際脳」が終了してAMEDも模様替えをしている状況であり、今後共同研究などによって、当院での発達障害症例の蓄積を生かした研究が発展していくことを期待したい。

1. 睡眠学センター

1) 日本人レストレスレッグ症候群(RLS)患者における周期性四肢運動(PLMS)の実態と合併症リスク

白人を対象としたコホート研究では、RLS患者でのPLMS合併率が70%を上回り、心血管系合併症の要因になるとされているが、アジア人での実態は明らかでない。本研究では自験298例のRLS症例についてPLM合併頻度を調べ、高血圧との関連性について検討した。その結果、日本人RLS患者でのPLM(単位時間あたりのPLM15回以上)は50%以下にとどまり、RLS重症度よりも年齢との関連性が高かった。また、対象RLS患者での高血圧有病率は一般人口と差が

無く、PLM 頻度との関連性は見られなかった。したがって、日本人 RLS での高血圧は本疾患との関連性は乏しいと考えられた。

2) 閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (OSA) の受療行動の関連要因の研究 (前年度からの継続)

OSA では、多系統の健康被害が生じることが明らかにされているが、受診・加療されているのは、その一部に過ぎない。本研究では、前年度に引き続いて、土木健保組合のレセプトデータにより保険組合員の受療状況を調べ、健康診断データならびに組合員の健康アンケートからみた背景要因との関連を探索することにより、対象者全体ならびに OSA 高リスク者 (BMI25 kg/m²以上、腹囲 94 cm以上、年齢 49 歳以上のいずれか二つ以上が陽性) での OSA に関する受療行動の関連要因、ならびに本疾患の代表的治療である鼻腔持続陽圧呼吸 (n-CPAP) の導入関連要因について検討した。その結果、受診要因としては、夜間呼吸停止の既往と、常習性いびき、心血管系合併症の存在とともに、ホワイトカラーであることが有意であり、高リスク者ではこれらに加えて残業が無いことが有意であった。また、CPAP 導入の関連要因としては、BMI30 kg/m²以上と心血管系合併症が有意であった。これらからみて、OSA の肥満・他覚症状だけでなく、疾患知識の水準 (=ブルーカラーの方が啓発が遅れている)、労働負荷による受診のゆとりがあることも受診に関連しているものと思われる。また、CPAP 導入者で肥満度がより高かったことから、この人口でも肥満度の上昇が OSA 重症化 (=CPAP の必要性) に結びつくと考えられた。

3) 睡眠覚醒相後退障害 (DSWPD) でのメラトニン受容体作動薬の処方生存率の研究

メラトニン受容体作動薬 (ramelteon) の、DSWPD 処方における至適処方用量は、現在まで確定されていない。本研究では、DSWPD 患者に治療目的で ramelteon が概日リズム位相前進時間帯に投与されたケースについて、用量 (1 mg、2 mg、4 mg、8 mg/日) 別に継続処方に関する追跡調査を行い、その処方生存率から本剤の至適用量を検討した。その結果、本剤の反応性が高年齢であるほど良好であること、さらに年齢による層別化の有無を問わず、2 mg/日が処方の生存性が良好であることがわかった。生存性が良好であることは治療反応性が良好かつ副作用が乏しかったことを示すことから、この少用量が DSWPD 治療に最適であると判断された。

4) 反復睡眠潜時検査 (MSLT) において、narcolepsy type2 (NT2) の背景の特徴

オレキシン分泌欠損を欠く NT2 では、生物学的基盤とともに睡眠衛生要因の関与が大きいと考えられている。本研究では 400 例以上の過眠症例の中で、特発性過眠症 (IH) と診断された症例と NT2 のポリソムノグラフィ (PSG) 指標と MSLT 指標の比較、ならびに NT2 と診断された症例の背景要因の検討を行った。その結果、PSG 所見において、NT2 の方が睡眠効率は高く入眠戦時が有意に短いことが確認された。MSLT では、入眠時 REM 期 (SOREMP) 出現率が NT2 の方が高い以外には両群間に差はみられなかった。NT2 の関連背景要因に関するロジスティック回帰分析では、週日の睡眠時間が短いことと睡眠中間点 (SMP) が後退 (=睡眠相の後退) していること、若年であることが有意であった。また、睡眠時間と SMP を中央値で分割して検討した結果、睡眠時間が短かつ SMP が遅い群で NT2 の割合が、両者が正常値であった群に比べて 3 倍 NT2 の割合が高かった。これらから、NT2 所見陽性の背景には若年者での REM propensity 上昇、睡眠衛生劣化が関連している可能性が推測された。

2. 発達障害研究室

成人の自閉症スペクトラム (Autism spectrum disorder; ASD) を主な対象とする専門外来は 2013 年度に新設し、2023 年度末までの累計初診患者数はおよそ 3,413 名に達している。専門外来と同時に開いたデイケア (発達障害ショートケアプログラム) も順調に推移している。2020 年度からはコロナ禍の中であったが、デイケア活動は感染対策を行ったうえで続けた。結果としてコロナによる受診回避は驚くほど少なかった。これは ASD 者が多かったためと考えられる。

発達障害者は入院適応になることは少ないが、心理検査の予約が殺到したために 2~3 週間の検査入院システムを導入した結果、今では月に 2~3 人が入院するようになっている。個室を使用することもあって、医療収入の増加と平均在院日数の短縮に大いに貢献している。この検査入院では、専属の臨床心理士がほぼ主治医のように担当するのが特徴である。これは今の診療報酬では心理士が入院患者に対応しても医療費にカウントできないことを踏まえて、差額病室代金をそれに充てるという意図が込められている。検査入院する患者のすべてが発達障害であるはずはもちろん無く、神経症やパーソナリティ障害がむしろ多いのが現状であるが、そういう場合にも高率に外来での心理カウンセリング (特別予約診療費: 5,000 円) に誘導できることは、診療上も病院の特色になっている。

デイケアでは、成人期の発達障害者を対象とした専門プログラム (ASD、ADHD) だけでなく、大学生対象の学生プログラム、そして専門プログラム修了者向けピア・サポートプログラムを行っている。また、就労準備性を高めることを目的とした就活講座も展開し、ひきこもり防止や自立を促すための支援を図っている。これらのプログラム・コース参加者は増加傾向にある。

研究面では、2021 年度から昭和大学発達障害医療研究所の五十嵐美紀研究員を代表者とする日本医療研究開発機構 (AMED) の「自閉スペクトラム症 (ASD) 当事者と家族が共に学ぶ自立促進プログラムの開発と包括的支援システムの構築」の研究に参画している。

こうした日頃の実績から、成人期の発達障害の診療・支援において高度な専門性を有する医療機関 (東京都拠点医療機関) として認められ、2020 年度から東京都が実施する「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」を受託するに至った。この事業では、都内医療機関の医療従事者に向けた専門人材育成研修の企画・運営と医療機関への個別支援、都内医療機関の調査・情報提供、区部・多摩地区の各地域拠点医療機関との連携を図り、専門医療機関ネットワーク構築に向けた活動を行っている。この活動は 2024 年度も継続的に展開する予定である。

2023 年 1 月から、東京都発達障害者支援センター委託事業「おとな TOSCA」をスタートした。業務内容は 18 歳以上の発達障害者本人、家族、職場からの電話相談や各行政担当者への指導、研修などを含む。発達障害支援法によって各都道府県には発達障害支援センターの設置が義務付けられており東京都では社会福祉法人嬉泉が 20 年来委託を受けて支援センターを運営してきた。しかし近年は成人の発達障害に関する相談が全体の 7~8 割を占めるようになっていった。そのため支援センターを「成人部門」と「児童部門」にわけて、前者を当法人がもっぱら受け持つこととして組織されたものである。当法人の特色である成人発達障害に対する専門外来やショートケアプログラムによる治療的試みが評価されたものということができる。当法人が計画している新・晴和病院の事業にも資することが大きいと期待される。2023 年度には TOSCA に寄せられた直近 1 年間の相談件数は、実人数にして年間 2,403

件であった。これ以外にも、年 3 回実施する地域支援者に向けた支援力向上研修をはじめ、普及啓発のための研修活動にも力を入れている。

3. 倫理審査委員会 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

開催回数：3 回

(2023 年 7 月 10 日 (月)、2023 年 11 月 20 日 (月)、2024 年 3 月 11 日 (月) 開催)

2023 年 7 月 10 日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 6 件

① 申請者 志村 哲祥

第 230 号-2

「睡眠覚醒相後退障害における睡眠薬の奇異反応と背景因子の検索」

② 申請者 咲間 妙子

第 231 号-2

「孤発性レム睡眠行動障害 (RBD) から α シヌクレイノパチーへの進展サブタイプとその関連要因の解明—孤発性 RBD の再定義と予後検証のための長期フォローアップ調査」

③ 申請者 西條 史祥

第 233 号-2

「不眠と閉塞性睡眠時無呼吸を併発した症例の特徴および治療法の検討」

④ 申請者 井上 雄一

第 234 号-2

「アクチグラフと 1ch 脳波計を用いたレム睡眠行動障害スクリーニング前向き研究」

⑤ 申請者 高木 俊輔

第 232 号-2

「中枢性過眠症における注意欠陥多動症の有病率調査—性格傾向ならびに日中機能に注目して」

⑥ 申請者 羽澄 恵

第 225 号-3

「治療中の睡眠障害患者を対象とした特発性過眠症重症度尺度の信頼性・妥当性の検討」

2) 新規提出

① 申請者 大河内 範子

第 235 号

「膠原病サポート・グループ参加者の心理的変容」

② 申請者 相澤 直子

第 236 号

「発達障害学生向けショートケアプログラムの汎用性に関する探索的検討」

③ 申請者 志村 哲祥

第 237 号

「睡眠覚醒スケジュールと生活の規則性が職業上のアウトカムに与える影響の前向き調査」

3) 再提出

① 申請者 幡手 隆雄

第 117 号-10

「成人発達障害に対するデイケアプログラムの効果判定に関する研究」

② 申請者 桑野 大輔

第 187 号-7

「東京都発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」

4) 共同研究

① 「発達障害者の認知・運動の特徴とそれに関わる神経機構の解明」

2023 年 11 月 20 日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 7 件

①申請者 平澤 俊之

第 182 号-9

「検診版 STOP-Bang 質問紙の有用性の検討」

②申請者 中山 秀章

第 199 号-4

「高度肥満患者の睡眠呼吸障害における日中および夜間高二酸化炭素血症による臨床的違いの件等」

③申請者 川嶋 真紀子

第 227 号-2

「日中の眠気を伴う睡眠障害における心理的困難についての質問紙調査」

④申請者 西條 史祥

第 233 号-3

「不眠と閉塞性睡眠時無呼吸を併発した症例の特徴および治療法の検討」

⑤申請者 大河内 範子

第 235 号-2

「膠原病サポート・グループ参加者の心理的変容」

⑥申請者 相澤 直子

第 236 号-2

「発達障害学生向けショートケアプログラムの汎用性に関する探索的検討」

⑦申請者 志村 哲祥

第 237 号-2

「睡眠覚醒スケジュールと生活の規則性が職業上のアウトカムに与える影響の前向き調査」

2) 新規提出

①申請者 武田 俊信

第 238 号

「雨中人物画テストの臨床的活用に向けた検討」

②申請者 大河内 範子

第 239 号

「膠原病をもつ子どもとその親の親子並行流プログラム」に参加した親子の心理的変容

3) 再提出

①申請者 幡手 隆雄

第 117 号-11

「成人発達障害に対するデイケアプログラムの効果判定に関する研究」

②申請者 井上 雄一

第 209 号-3

「レストレスレッグス症候群および慢性不眠症における中枢神経感作に関する疫学調査（縦断調査）」

2024 年 3 月 11 日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 5 件

①申請者 川嶋 真紀子

第 227 号-3

「日中に眠気を伴う睡眠障害における心理的困難についての質問紙調査」

②申請者 谷岡 洗介

第 212 号-3

「わが国のナルコレプシーの実態に関する疫学研究」

③申請者 武田 俊信

第 238 号-2

「雨中人物画テストの臨床的活用に向けた検討」

④申請者 大河内 範子

第 235 号-3

「膠原病サポート・グループ参加者の心理的変容」

⑤申請者 井上 雄一

第 209 号-4

「レストレスレッグス症候群および慢性不眠症における中枢神経感作に関する疫学調査（縦断調査）」

2) 新規提出

①申請者 井上 雄一

第 240 号

「働き方改革が睡眠習慣、精神健康、および仕事の充足感に与える影響」

②申請者 川嶋 真紀子

第 241 号

「ナルコレプシーおよび突発性過眠症を対象としたオンラインピアサポートグループ介入効果のパイロット研究」

③申請者 大河内 範子

第 242 号

「膠原病サポート・グループ参加者の心理的変容」

3) 再提出

①申請者 本多 真

第 188 号-4

「過眠を呈する睡眠障害の病態に関与する遺伝子の探索とその機能および末梢血リンパ球の自己抗原特異的増殖反応の研究」

②申請者 大河内 範子

第 239 号-2

「膠原病をもつ子どもとその親の親子並行交流プログラム」に参加した親子の心理的変容」

4. 治験審査委員会（2023年4月～2024年3月まで）

開催回数：9回

1)	2023年4月27日	(木)	継続の可否について	2件	新規1件	報告2件
2)	2023年5月25日	(木)	継続の可否について	3件		
3)	2023年6月29日	(木)	継続の可否について	5件		
4)	2023年7月20日	(木)	継続の可否について	2件		
5)	2023年9月28日	(木)	継続の可否について	5件		
6)	2023年10月26日	(木)	継続の可否について	3件		
7)	2023年12月21日	(木)	継続の可否について	5件		
8)	2024年2月22日	(木)	継続の可否について	1件		
9)	2024年3月28日	(木)	継続の可否について	1件	報告4件	